

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 研究期間 平成19年度～平成21年度
5. 課題番号 1 9 5 2 0 3 7 0
6. 研究課題名 言語コミュニケーションを支える規範と逸脱のダイナミクスの認知語用論分析

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
3 0 4 2 4 3 1 0	フリガナ <u>岡本 雅史</u>	片柳研究所	客員准教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成21年度は本研究課題の最終年度に当たるため、これまでの研究成果を著書（6月出版予定）としてまとめることに多くの時間を割いた。特に、発話理解を認知とコミュニケーションの観点から見直すために〈発話事態モデル〉を提案し、それに基づいた発話理解過程の記述と説明を行った点、およびメタファー、直喩、メトニミー、シネクドキ、アイロニー、ヘッジ表現など様々なレトリック表現を取り上げて個別の言語現象の中にある言語使用者の事態認知の相互作用を明らかにした点は、言語学研究のみならず認知科学やコミュニケーション研究にとっても重要な示唆に富むと考える。

さらに、上記の認知語用論の著書において展望的な試みとして記したように、狭い意味での言語研究を超えたコミュニケーション研究の一環として、(1) 発話の外部指向性の相互行為的実現手法の分析、(2) コミュニケーション障害者のメタ認知モデルの構築、の二つの萌芽的研究を行った。(1) に関しては、漫才のボケとツッコミに見られる「相互行為の外部提示」に着目し、これを〈オープンコミュニケーション〉としてモデル化した。一方(2)に関しては、コミュニケーション障害の例として高次脳機能障害や精神障害を取り上げ、そうした障害を持つ者たちがどの程度のメタ認知能力を日常的なコミュニケーション場面で運用することができるかについての分析を行った。こうした試みは本研究課題がその成果として提出する「認知語用論」という新しい研究パラダイムの射程のうちに含まれ、今後の認知語用論研究の展開の一端を示すものである。

10. キーワード

- (1) 認知語用論 (2) レトリック (3) メタ認知
 (4) オープンコミュニケーション (5) 発話理解 (6) 相互行為
 (7) 認知言語学 (8) _____ (裏面に続く)

11. 研究発表（平成21年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 0 ）件 うち査読付論文 計（ 0 ）件

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

〔学会発表〕 計（ 2 ）件 うち招待講演 計（ 1 ）件

発表者名	発表標題		
岡本雅史	相互行為を見せるということー〈オープンコミュニケーション〉の認知的デザインに向けてー		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第4回ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(VNV)年次大会	2010年3月6日	東京都, 国立情報学研究所	

発表者名	発表標題		
岡本雅史	高次脳機能障害者の会話場面における話し手/聞き手のメタ認知		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本認知科学会第26回大会 ワークショップ「コミュニケーションの中のメタ認知— 高次脳機能障害や精神障害を抱える人々とのコミュニケーションギャップを手掛かりとして—」	2009年9月12日	神奈川県, 慶応大学湘南藤沢 キャンパス	

〔図書〕 計（ 3 ）件

著者名	出版社		
崎田智子・岡本雅史	東京: 研究社出版		
書名	発行年	総ページ数	
『言語運用のダイナミズム—認知語用論のアプローチ (山梨正明(編) 講座: 認知言語学 のフロンティア第4巻)』(印刷中)	2010	270頁 (予定)	

著者名	出版社		
岡本雅史	東京: オーム社		
書名	発行年	総ページ数	
実践: 漫才対話のマルチモーダル分析 (坊農真弓・高梨克也(編) 『知の科学—多人数 インタラクションの分析手法』, 5.3節)	2009	16頁	

著者名	出版社		
Mika Enomoto, Masashi Okamoto, Masato Ohba, and Hitoshi Iida	Berlin/Heidelberg: Springer-Verlag		
書名	発行年	総ページ数	
Laughter around the End of Storytelling in Multi-Party Interaction (In: H. Hattori, <i>et al.</i> (eds.) <i>Lecture Notes in Artificial Intelligence</i> 5447)	2009	13頁	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<http://implicature.net/index-j.html>